

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	120 文化祭開催経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	07	文化振興費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	128	文化振興経費
		細々目	52	文化祭開催経費
行革大綱の重点事項番号		7		
担当部課	コード	11300		担当者
	名称	企画総務部企画課		氏名
			福島 礼子	連絡先
			22 - 9621	(内線) 2115

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	芸術文化活動に取り組む人及び団体	※対象件数
成果(どうする)	活動の成果を発表される場が提供され、参加者(団体)相互の文化意識を高め、それぞれの活動内容がより充実する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	2009伊賀市民文化祭実行委員会に事業を委託した。 市内の文化団体代表者らで実行委員会を組織し、事業計画、運営を行った。 市内全域から参加者を募集した。 文化活動の発表として、市内ホール・展示会場で舞台公演および作品展示を行った。	
社会情勢 の変化等	行財政改革大綱による委託料の削減に従い、委託料を減額した。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
開催延日数		日	目標 10	目標 10	10	10
			実績 11	実績 12		
実行委員会数		回	目標 3	目標 3	3	3
			実績 4	実績 3		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
参加団体数		発表の場を設けることで活動内容が一層向上する	団体	目標 100	目標 100	100	100
				実績 88	実績 91		
入場者数		芸術文化作品を鑑賞することにより文化意識の向上につながる	人	目標 5500	目標 5500	5200	5300
				実績 5103	実績 4923		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計 (A)	2,140	2,104	1,972	1,972				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0	0	0				
一般財源	2,140	2,104	1,972	1,972				
事業投入人件費 (B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト(A)+(B)	3,580	3,544	3,412	3,412				

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
効索性	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
達成度	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	芸術文化活動に関心を持ち、活動をする人が増加することにより、市民が心豊かに生活し、活気と個性あふれる社会が形成される。日頃の芸術文化活動の発表の場を作る。
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
有 効 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達 成 度	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
効 率 性	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
効 果 性	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
効 率 性	受益者負担を求められることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
効 果 性	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀市全域からの参加者、来場者が増えるように、参加者募集、開催案内の周知方法を見直す。また、使用料負担額の少ない会場を設定する。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	開催案内については、広報・ケーブルテレビ・各地区へのポスター掲示等を行い、周知を行った。会場については、2部門が会場料の安いところで開催した。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	増田 基生
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	日頃、芸術文化活動に取り組む団体の発表及び交流の場として必要である。また、交流することでお互いの文化意識の向上が期待できる。
現時点における課題、その他	入場者数を、目標数に達するよう集客方法を考える。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	22年度からイベントちらし、ポスターの配布先についてみなおし、積極的な事業周知を行う。